

TOYOTA *MARINE* Ocean Style

Mar 2023 Vol.14

Proposed
the Play of Ocean



Play!

海の楽しさは、無限だ。

一人ひとりの海の楽しみ方に応えるための、
テクノロジーとデザイン。

そのパフォーマンスを体感した時、
あなたの海の欲びはきっと広がっていく。

フィッシングにとどまらない、
海を楽しむ尽くすための贅沢な一艇。

Premium Sport Cruiser
PONAM-28V

カタログ請求はこちら



◆Sグレード：本体価格 21,780,000 円(税込) / Xグレード：本体価格 28,380,000 円(税込)

※写真はSグレード、オプション装着時 ※写真には撮影用小物等を含むことがあります。

TOYOTA MARINE

詳しくは、お近くのトヨタボート販売店、またはフリーダイヤルへお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 マリン事業室 トヨタマリン営業所 ☎ 0120-532-451 | www.toyota.co.jp/marine/



TOYOTA MARINE
Ocean Style

Proposed the Play of Ocean

TOYOTA MARINE

TOYOTA MARINE Ocean Style

— Mar 2023 Vol.14 —

PONAM-31 Z Grade開発ストーリー

MODELLISTA(モデリスタ)とのコラボレーションで
実現したPONAM-31の「進化」と「深化」に迫る



08

PONAM-31 Zグレード インプレッション



12

PONAM-31に新たな魅力をプラス

Z Gradeに追加された新機能や装備に迫る



16

》 本社開発試作部 モビリティ先行技術室にインタビュー

PONAM-31 Z Grade専用のAR確認ツールを開発
実艇が無い場合でもスムーズな製品理解が可能に



20

》 元町工場 車体部 カーボン課にインタビュー

PONAM-31 Z Grade専用のカーボンパーツを開発・生産
クルマづくりで培った技術をボートにも発揮



22

海女文化の残る美しい海で

「御食国」鳥羽が誇る四季の恵みに触れる



26

ポナムシリーズ
試乗会レポート

PONAM-31 Z Grade が国内初お披露目
— 見学した来場者が評価したポイントとは —



32

ポナムシリーズ
試乗会レポート

日本ボート・オブ・ザ・イヤー選考委員がZ Gradeに試乗
— ラグジュアリーかつ機能的に進化したスタイルを評価 —



33

LEXUSの世界観を陸だけでなく海でも体験

「LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE 2022」開催



34

兵庫県の前田元彦知事とスーパーヨット関係者による対談が実現

兵庫へのスーパーヨット誘致に向けた意見交換会開催



35

蒲郡に多種多様な乗り物・最新技術が集結

パワステがまごおりスカベンジャーラリー開催

2023/1/22 in Gamagori City, Aichi Prefecture



36

サービスマンが伝える出航前点検の重要性
ポナムを長く乗るためのコツとは



38

MARINA DIVIDE VOL.15

MARINA KAWAGE

マリーナ探訪 | マリーナ河芸



40

PONAM LINE UP

ポナムラインナップインフォメーション

42

SeaDek® MARINE PRODUCTS



RECAR

株式会社リガーマリンエンジニアリングは、
SeaDekの認定加工業者(Certified Fabricator)のライセンスを取得し、
国内での製造加工をしています。



PONAM35



PONAM31



PONAM35,PONAM31,PONAM28V お好みのデザインでご注文承れます



SeaDek®はHyperForm社の商標登録です。

株式会社リガーマリンエンジニアリング

三重県いなべ市大安町南金井1732番地

TEL:0594-87-0200 FAX:0594-87-0300

リガーマリン シーデック

HP



Instagram



LINE@



PONAM-31 Z Grade開発ストーリー

MODELLISTA(モデリスタ)とのコラボレーションで 実現したPONAM-31の「進化」と「深化」に迫る

PONAM-31 Z Gradeはコロナ禍で変化した人々の生活様式やニーズに対応するため、昨年新たに誕生した新グレードで、モデリスタとコラボレーションしたことによるデザイン面での「進化」はもちろん、船内での機能性や居住性についても「深化」させている。この船のコンセプトである「Luxury Party Style & Workcation Utility」に、モデリスタのデザインフィロソフィーである「Resonating Emotion ～響感の創造～」を融合させ、贅沢で優雅な佇まいを演出するデザインにまとめ上げた。今回は両社の企画・開発担当者にインタビューし、開発経緯からデザインに込められた想いまでお話を伺った。



デザインワークをコラボレーションしたPONAM-31 Z Gradeと写真に収まる(左から)トヨタカスタマイジング&ディベロップメント 尾崎部長、久世主任、トヨタ自動車 クルマ開発センター カラーマネジメント室 金丸主査、マリン事業室 企画・開発グループ長 高井。

TOYOTA MARINE × MODELLISTA

■ はじめに、PONAM-31 Z Gradeを開発することになったきっかけを教えてください。

高井 「コロナ禍で人々の生活様式に変化があり、お客様が求めている空間や装備が変わるなかで、我々の商品についても進化させていく必要があると思い、Z Gradeの企画を始めました。これまで以上にボートでもトヨタらしさを表現するには意匠(デザイン)でも新しい風を取り入れる必要があると感じ、モデリスタさんに企画・コンセプトに共感いただき、今回のコラボレーションが実現しました。」

About MODELLISTA

モデリスタは1997年にトヨタ自動車の子会社として誕生し、当時海外では主流だったカスタマイズを日本の文化として根付かせたい思いから、子会社ならではのスピード感でカスタマイズカーを開発してきた。2022年には25周年を迎え、現在ではトヨタ車やレクサス車のカスタマイズパーツ全般を手がけている。エアロパーツは「Resonating Emotion ～響感の創造～」をデザインフィロソフィーに、ベース車の特徴を生かしつつ、クルマと響き合う一体感や、感情を高ぶらせるデザインで、常に一步先をゆくドレスアップやカスタマイズをお客様にご提案している。



■ モデリスタとして、Z Gradeのデザインワークを担当する話があった時はどのように思いましたか？

久世 「モデリスタはこれまでクルマの外観を中心にカスタマイズのデザインを行っ

てきましたが、今回はボートの使用シーンを想定してデザインするというので、新しいチャレンジができると思いました。また、最近ではクルマを取り巻くライフスタイルも含めた商品提案をしていきたい、まさにブランド変革期だったので、今回のコラボレーションにはぜひチャレンジしたいと思いました。」

■ デザインワークを進めるにあたり、最初に取り組んだことは何でしょうか？

久世 「まずはトヨタマリンさんからお伺いしていた主要コンセプトを明確に理解・合意しようと思いました。その中ではデザイン画のスケッチを使い、視覚的にも狙いと呼応するかを確認しながら議論を進めました。最終的に、コンセプトとして「Luxury party style」と「Workcation Utility」の2つに纏まりました。新鮮な風をデザインにも吹き込みたいとの思いから、トヨタマリンさんからはあえて制約条件をつけずに自由にデザインワークを進められました。その甲斐あって、贅沢で優雅な佇まいを持つ斬新なデザインに纏められたと思います。」

■ ボートのデザインは自動車のデザイン手法とは全く別でしょうか？実際にボートのデザインを行うなかで、どんなことに苦労されましたか？

久世 「今回は室内空間を全域でデザインさせていただいたこともあり、クルマのエアロパーツとはデザイン手法が大きく異なりました。まずはトレンド調査も兼ねて世界中の高級ヨットから外観の世界観や内装の色合いなどを研究しました。苦労した点は限られたスペースの中で、空間をより広く見せるために試行錯誤したことです。また、ボートのパッケージデザインは、その下に収められているエンジンや部品の機能を損なわないスペース制約を守る必要があり、デザインコンセプトに沿ったレイアウトを形成していくことにも苦労しました。」



お客様が求めている空間や装備が変わるなかで、我々の商品についても進化させていく必要があると思い、Z Gradeの開発を企画しました。モデリスタさんとコラボすることで、これまで以上にボートでもトヨタらしさを表現できました。

マリン事業室 企画・開発グループ長 高井 智祐



お客様は商品を買う時に単純に物を買うだけでなく、商品の持つ世界観や体験価値も同時に買われています。だからこそ、僕らの企画は単純にカッコいいだけでなく、こうした世界観や体験価値を本当に楽しめることが大切です。

クルマ開発センター カラーマネジメント室 主査 金丸 克司



モデリスタとしては今後もより一層、幅広いステージにおいて、お客様の求めるライフスタイルに合わせたデザインを具現化していきたいと思っています。

トヨタカスタマイジング&ディベロップメント 営業企画本部 用品・ハートフル事業部 部長 尾崎 勝敏



リアガーニッシュやコンソール周りにモデリスタのエッセンスが表現されたシルキーゴールドの加飾を配置しています。クルマの世界でも表現しているような洗練された金属感を、ボートの世界でも表現しました。

トヨタカスタマイジング&ディベロップメント 開発本部 内外装技術部 デザイン室 スタイルクリエイティブグループ 主任 久世 峻大



ハルカラーに採用されたダークグレーとライトグレーのコントラストや差し色になっているシルキーゴールドの色合いなど、デザインについては各社の担当者同士が非常に長い時間を掛け、議論と検証を重ねてきた。

拘り抜いたカラー・素材・質感をお客様へ適切にお伝えできるように、採用されたマテリアルを集めたサンプル帳を準備。こういった実際のモノをみながら開発の中で最適な選択をしていた。



■トヨタマリンとして、デザイン開発をモデリスタとコラボレーションすることで、どんなことを期待していましたか？

高井「デザインや素材を通じて、お客様にクルマと共通する「空気感」を感じていただき、我々が目指すFun to driveに繋がると体験価値を提供したいと思いました。」

金丸「モデリスタさんとコラボレーションすることで、新しい風を吹き込みたいと思っていました。どうしても同じブランドのボートをデザインしていると、デザイン技術やアイコンが固まってきてしまうと同時に、それらを壊すことが難しくなってきます。今回外部のアイデアを取り入れたことで、普段自分たちが考えないようなデザイン案が出てきたので、ぜひやりたいなと思いました。一番印象深かったのは「Luxury party style」のコンセプトに合う夜のシーンです。国内ではフィッシャータイプも多く、デザインコンセプトも爽やかな日中のイメージが多いため、とても新鮮でした。こうしたアイデアは普段のデザインにも積極的に活かしていきたいと思いました。」

■今回のプロジェクトで最もこだわった部分を教えてください。

久世「リアガーニッシュをはじめ、コンソール周りなど、モデリスタのエッセンス

が表現されたシルキーゴールドの加飾部分があり、クルマでも活用しています金属感のプレミアムな雰囲気はボートの世界でも表現した部分はぜひご覧いただきたいです。」

高井「機能性や居住性の面では、デッキやサロンでの回遊性と居心地の良さに特に拘りました。限られたスペースのなかで、キャビンからアフトデッキにかけてはストライプの床材を連続的に採用したことで、これまで以上に空間としての繋がりを高めました。また、実際に船上パーティーを楽しんでいる方々へのヒアリングで、スタンディングパッドの重要性に着目し、新たに採用しています。他にも、サロンソファの中抜き構造やアフトデッキラウンジクッションを設置することで、より機能性についても深化させています。」

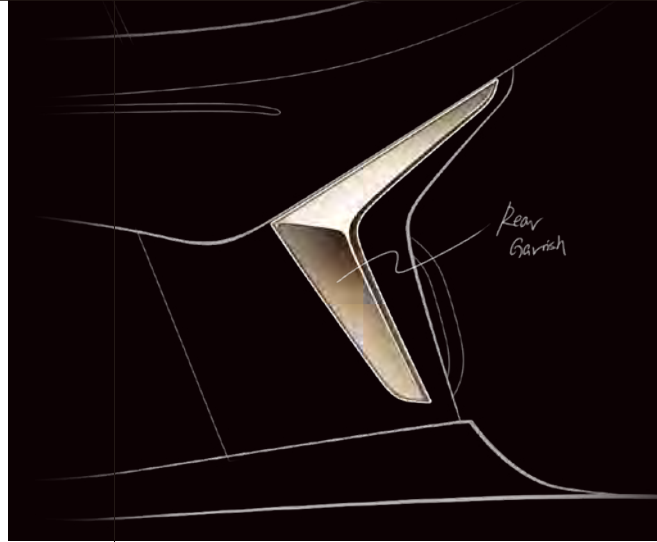
金丸「イラスト段階で表現された質感や色合いは、現実のモノになったとき必ずしも第三者と一致するとは限らないので、イラストで表現された世界観に限りなく近づけるよう、船体に採用しているカラーはもちろん、ソファなどの素材や質感にも相当拘っています。ハルカラーにダークグレーとライトグレーを採用したのは、シルキーゴールドを入れた時にホワイトでは表現できない、程良いコントラストを実現する狙いです。ゴールドの色合いについては新型クラウンの内装にもアクセントとし

てゴールドが採用されていたので、これをヒントにZ Gradeに最適なゴールドが表現できるよう、相当な議論と検証を重ねてこの色を選んでいます。」

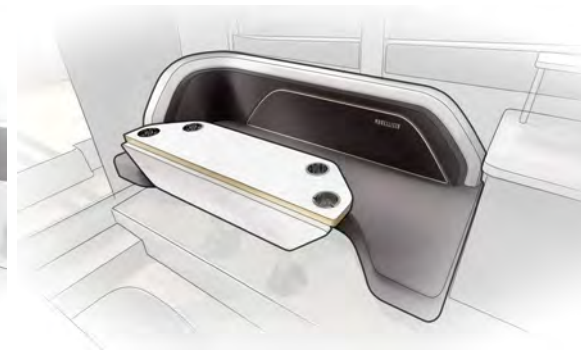
■プロジェクト開始から実際にデザインが完成するまで、期間はどのくらいでしたか？

高井「2021年1月に開発の骨子を検討し、3月にはコンセプトを言語化・イラスト化したものを纏めました。その後、会話を密にブラッシュアップを進めていき、5月に大きな方向性を確定し、デザインレビューを実施しておりましたので、実質約5ヶ月間でデザインは完成しています。ちなみに初号艇は翌2022年10月には横浜BFでお披露目しており、非常にスピード感を持ってプロジェクトに臨むことができました。」

金丸「モデリスタさんにクルマのドレスアップパーツ開発やデザインで培ったベースの上に、更に進化させるノウハウがあったというのも短期間でデザインを完成できた要因だと思います。」



Z Gradeにはモデリスタのエッセンスを表現したシルキーゴールドの加飾パーツを採用し、プレミアムな雰囲気をボートの世界でも表現している。



久世「実は事前にベンチマークしていた情報を纏めて、キックオフの打合せ時に写真を皆さんに見ていただき、デザインコンセプトに関するベクトルを合わせられたことで、スムーズにデザイン作業に入ることができました。」

■今回のコラボレーションで、大切にしていたことはありますか？

金丸「お客様は商品をご購入いただく際に単純にモノを買うだけでなく、商品の持つ世界観や体験価値も同時に買われていると思います。だからこそ、私たちの仕事は単純にカッコいいだけではなく、本当に今回のコンセプトに合わせた空間かどうかをしっかりと意識しながらデザインを進めました。例えば、夜のシーンでしっかりと寛げるか、パーティーシーンでは本当にここにいたいと思えるか、五感を使って

お客様に提供したい体験価値を具現化することに注力しました。このように、「機能的価値」だけでなく、言葉や機能で表せない「情緒的価値」も大切に、この船の世界観や体験価値もお客様に楽しんでもいただきたいと思います。」

尾崎「モデリスタには『あなたの「もっと」に応えたい Something Extra』というブランドのコンセプトがあり、その考えを大切に、常に一歩先をゆく提案ができるよう心掛けました。モデリスタとしては今後もより一層、幅広いステージにおいて、お客様の求めるライフスタイルに合わせたデザインを具現化していきたいと思っています。」

■今回Z Gradeのデザインワークを担当したことで、周囲の反応はどのような感じですか？

尾崎「今日、私が身につけている時計はセイコーさんとのコラボレーション企画でモデリスタもデザインに参加させていただいたものですが、今回トヨタマリンさん



今回Z Gradeをデザインするにあたり、モデリスタのデザインフィロソフィーである「Resonating Emotion（響感の創造）」を活かして、加飾の形状、デザインテイスト、カラーリングなど感情に響かせるデザインを採用している。



PONAM-31 Zグレード インプレッション

トヨタマリンの主力モデルとして、発売以降高い人気を誇るSport Utility Cruiser「PONAM-31」に新グレードとなる「Z Grade」が誕生。「Workcation Utility & Luxury Party Style」を開発コンセプトに、内外装のデザインをモデリストとコラボレーションするなど、先進かつ優雅な佇まいが演出された話題の1艇をご紹介しよう。

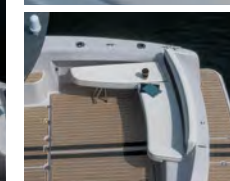


PONAM-31の魅力の一つとして、忘れてはならないのが圧倒的とも言える走行性能。ランドクルーザー・ブラド(海外仕様)にも搭載された3・0L直列4気筒直噴ディーゼルエンジン(260馬力2基掛け)をポート用にマリナイズし、最高速度は約36ノットを記録。巡航時の燃費は60L/hとなっており、燃費性能も非常に高い。船体には「アルミハル」を採用し、FRP艇と比較しても衝撃や振動が少なく、快適なクルージングを楽しめる。「Z Grade」でもTDS(トヨタドッキングサポート)をはじめとした操船支援システムをオプション搭載することが可能である。

船上での新たな過ごし方を提案する PONAM-31の新グレード

コロナ禍は人々の生活に大きな変化をもたらし、ユーザーの価値観やライフスタイルはここ数年で大きく変わった。特に増えたのは普段出勤するオフィスではなく、自宅などの場所からリモートで仕事をする「リモートワーク」ではないだろうか。また、密になる空間を避けつつ、屋外でも楽しめるレジャーとして、マリンレジャーには近年一際大きな注目が集まっている。

こうしたリモートワークの活用やアウトドア需要の高まりに対応すべく、トヨタマリンではPONAM-31の新グレードとして、「PONAM-31 Z Grade」を発表。「Z Grade」はオプションでWi-Fi設備の搭載と収納昇降式43インチテレビを設置可能で、海を見ながらサードプレイスからのリモートワークもサポートしてくれる。そして、モデリストとのコラボレーションで、より一層ラグジュアリーな雰囲気となったサロンやデッキエリアには居住性を高める装備が多数採用されており、利便性とスタイリッシュさを両立したボートステイを快適に楽しめる仕様となっている。



アフトデッキ
ラウンジクッション(OP)

カップホルダー兼
ロッドホルダー(OP)

アフトデキタープ(OP)

ハル水中ライト(OP)

エクステリアは機能的なアフトデッキと シルキーゴールドのリアガーニッシュに注目

エクステリアを説明する上で、はじめに触れておきたいのがダークグレーと一見ホワイトにも見えるスタイリッシュなライトグレーのツートンカラーを採用した船体のカラーリングだ。両サイドにはトヨタ自動車のカーボン課とコラボレーションして生産したリアガーニッシュが配置され、シルキーゴールドがアクセントとなることで、船体のデザインを引き締めている。パウデッキ、フライブリッジ、アフトデッキの足元にはそれぞれセンターにブラックのラインが入った「Z Grade」専用デザインを施したフレキシチーク(OP)を採用。フライブリッジではシートカラーの一部にダークグレーを使うことで、船体との統一感も生まれ、まとまりのあるデザインとなっている。コンソールパネルやウインドシールドプレートにも自社生産のカーボン素材を使用するなど、クルマで培った技術をマリンにも効果的に採用している。フライブリッジには人気オプションのトマオーニングを設置可能で、日差しをカットするのはもちろん、冬にはパワーウィンドシールドがフライブリッジに流れ込む風を抑えてくれる。フラットなアフトデッキにはL字型のラウンジクッション(OP)が設置され、解放感を味わいながら軽食や歓談も楽しめる。エンジンハッチはラウンジ

クッションを付けたままでも開閉可能なため、メンテナンス性も抜群だ。ブルワークにはカップホルダーとロッドホルダーの2way利用が可能なホルダー(OP)も設置されており、クルージングだけでなく、釣りのシーンでも快適に使用できる。日中はアフトデキタープ(OP)を設置することで、サロンに入らずとも直射日光から肌を守ってくれるため、女性からも喜ばれるだろう。アンチ・ローリング・ジャイロ(OP)を搭載したことで、停泊時の横揺れが低減され、疲労や船酔いも軽減してくれる。フェンダーは重量が非常に軽いFendertex社製のエアフェンダー(OP)を採用することで、取り付け作業がスピーディーになるだけでなく、エアーを抜いて折りたたむことで、スマートに収納もできる。夜間はブルワークの間接照明に加えて、両舷に設置された水中ライト(OP)がエレガントな雰囲気演出してくれる。エクステリアをざっと見ていくだけでも、船内で快適に寛ぐことのできる多彩な装備が用意されていることが理解できる。

(OP)・・・オプション装備



アンチ・ローリング・
ジャイロ(OP)



エアフェンダー
(OP)



トマオーニング(OP)



サロン



サロンソファ



ギャレー



除湿機能付きマリンエアコン



コンソールパネル



パウバース



パウダールーム



ヘルムステーション



サロンソファベッド



サロンソファ



ソファ下収納ボックス



カウンターテーブル



冷蔵庫

モデリスタとのコラボレーションで 贅沢で優雅な佇まいのインテリアを実現

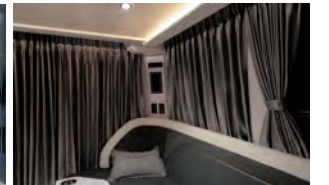
続いて船内を見ていくと、サロンはエクステリア同様にダークグレーとライトグレーのツートンカラーで構成され、アクセントにシルキーゴールドを使うなど、上質な空間が演出されている。パウバースにはダークグレーのクッションとサイドパッドが設置され、幅や高さも十分に確保されているため、大人でも横になって寛げる。左舷側にはパウダールームが設置され、高さも十分なため、女性の着替えスペースとしても活用でき、室内はアクセントパネルが追加されたことで、より上質な空間となっている。ヘルムステーションは視認性に拘ったコンソールパネルを採用。16インチディスプレイも装着可能なため、本格的な釣りやクルージングのシーンでも快適な操船をサポートしてくれる。置くだけ充電や船内通話用のマイク（OP）も設置されているため、機能性は非常に高い。シート後方にはマリンオーディオ（OP）も設置可能で、好きな音楽を船内で聞きながら、快適に過ごすことができる。左舷側のギャレーには食器を置ける棚も設置され、蛇口から出る水には優れた洗浄効果を発揮するウルトラファインバブルが含まれる。サロン内には陸電エアコンが装備され、船内は常に温度調整が可能のため、クルージングや釣りのシーンでは

移動の時間も快適だ。吹き出し口からはナノイーXが放出され、室内に爽やかな空気を循環してくれる。左舷側後方にはモデリスタのロゴが入ったサロンソファや2wayサロンテーブルを設置。サロンテーブルは必要に応じてテーブルトップを広げられるため、機能性は非常に高く、高さを少し下げた状態でサロンソファの背もたれを取り外し、座面に設置することでソファベッドになる。デザインや質感もモデリスタとのコラボレーションによって洗練された仕上がりになっており、ラグジュアリーな気分が広がる。右舷側のカウンターテーブルには収納昇降式の43インチテレビ（OP）が設置でき、使わない時にはスマートに収納することも可能だ。カウンターテーブルにはスタンディングパッドが採用され、体を預けながら飲談のひと時も楽しめる。足元には冷蔵庫が用意されており、船上パーティーやボートステイも存分に楽しめる。カーテンには「V-CAT（OP）」という光触媒を採用することで、太陽光などの紫外線だけでなく、LED照明にも高い触媒活性を発揮してくれる。「PONAM-31 Z Grade」は新しい生活様式に対応可能な機能性と、モデリスタとのコラボレーションによる優雅で機能的なエクステリア&インテリアを備えた魅力的な1艇に仕上げられていた。

（OP）・・・オプション装備



収納昇降式43インチ4K液晶テレビ（OP）



V-CAT 高性能カーテン（OP）



YouTubeで
解説動画を見る



YouTube

TOYOTA MARINE PONAM-31 Zグレード

- ▶本体価格(税込): 45,650,000円 (Xグレード 42,130,000円)
- ▶全長: 10.57m ▶全幅: 3.20m ▶エンジン: M1KD-VH (260PS) 2基掛け
- ▶使用燃料: 軽油 ▶ハル: アルミ合金製 ▶燃料タンク: 620L ▶清水タンク: 110L
- ▶定員: 12名(フライブリッジ5名) ▶航行区域: 沿海

お問合せ先

トヨタマリン営業所(TOYOTA MARINE ラグーナ)

〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2-1 フリーダイヤル 0120-532-451
営業時間 10:00~17:00 定休日 火・日曜日

PONAM-31の
カタログ請求
はこちら



PONAM-31に新たな魅力をプラス

Z Gradeに追加された新機能や装備に迫る

PONAM-31 Z Gradeの開発では「空気環境」、「快適装備」、「専用装備」をキーワードに、様々な企業とコラボレーションすることで、従来モデルからの「深化」を実現し、新グレードをこれまで以上に魅力的な1艇に仕上げている。今回はコラボレーションによってPONAM-31に新たに加わった魅力的な機能や装備をご紹介します。

企業名 ▶ パナソニック株式会社
商品名 ▶ ナノイーX

商品について
詳しくはこちら



nanoeX

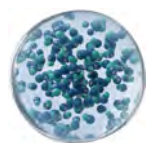


室内空間の清潔さ・快適さが無視できない昨今の時代だからこそ、快適な空気環境の維持効果が高く、トヨタ車両にも多く採用されているナノイーXをプレジャーボートでは世界で初めて採用（PONAM31 Z Gradeに標準搭載）。ナノイーXは空気中の水に高電圧を加えることで生成されるナノサイズの微粒子イオンで、有害物質を変性させる作用をもつOHラジカルを含んでいます。一般的な空気イオン（マイナスイオン）の寿命は数十秒～100秒のところ、ナノイーXでは約6倍の600秒（パナソニック調べ）となっている。水に包まれたナノイーXは寿命が長く、広範囲に広がっていくのも特徴の一つだ。コロナ禍で注目を集める非3密空間である海と空に包ま

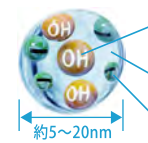
れたオーシャンアウトドアのシーンでは開放空間であるが故に、船内に磯の香りや魚の匂いを持ち込むことは避けられず、お手入れに苦慮された経験を持つ方も多いのではないだろうか。実際に「クルマでよく採用されているので、プレジャーボートにも採用できないか。」という声も現場から

は届けられており、不快な匂いや空気の汚れをゼロにするまでは難しいものの、ナノイーXを採用することで、この船で過ごす誰もが寛げる快適性を追求したい、との開発陣の想いで、PONAM-31 Z Gradeではキャビン内の各エアコンに標準搭載されている。

【ナノイーの特徴】



OHラジカル量
4兆8,000億個/秒



【効果の決め手】
OHラジカル（高反応成分）
水でできた粒子（長寿命）
電子

※nanoe=nano-technology+electric最先端のテクノロジーから生まれた“水につつまれている電気を帯びたイオン”のこと。

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニックホールディングス株式会社の商標です。
※使用環境によっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

快適装備

企業名 ▶ 株式会社シバタ
商品名 ▶ ウルトラファインバブル

商品について
詳しくはこちら

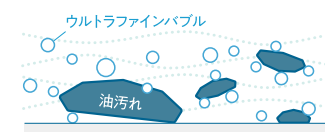


近年、シャワーヘッドや洗濯機で急速に認知度が高まり、その後、様々な機器やシーンへ拡大され、陸上では既にお馴染みとなりつつある「ウルトラファインバブル」。今回Z Gradeに標準搭載されたことで、こちらも世界で初めてプレジャーボートへ採用された。「ウルトラファインバブル」の搭載を提案したのは日頃よりお客様の大事な艇をお預かりして整備させていただいているサービスマン。日々メンテナンス

業務を行うなかで、「ウルトラファインバブル」の汚れ落ち性能に触れたことがきっかけであった。導入にあたっては、手にこびり付いた塩を少しでも楽に落とせるのか、

匂いも取れやすいのか、実際の装備に織り込んだ時に十分な「ウルトラファインバブル」を発生・維持できるのかなど、様々な検証を進めた上で、搭載されることとなった。

■水洗い



ウルトラファインバブルが水流の力で汚れの奥まで入り込み汚れを落とします。

■洗剤洗い



ウルトラファインバブルが洗剤の洗浄成分である界面活性剤に汚れに吸着浸透させ汚れを剥がしとります。

※イラストはイメージです。

快適装備

企業名 ▶ 豊通ヴィーテクス株式会社
商品名 ▶ 「V-CAT®」可視光応答型光触媒

商品について
詳しくはこちら



船内のカーテンには豊田中央研究所によって技術開発された光触媒「V-CAT®」を採用したカーテンを採用。無電力でも太陽光の力で気になる匂いを抑えることが可能となっている。プレジャーボートは陸上のモビリティと異なり、なかなか毎日動かすのが難しく、陸上保管や海上係留

ほとんどだ。光触媒技術をうまく採用できれば、無電力でも太陽光の力を最大限に活用し、空気環境を綺麗に維持することができないだろうか。この思いから新たな技術の探索がスタートし、結果的には同じトヨタグループ内で技術開発・ライセンス保有している「V-CAT®」という可視光応答型光触媒を採用したカーテン

を搭載することとなった。「V-CAT®」は高い耐久性と快適性が求められるジャパントクシーでもメーカー純正用品としてハーフシートカバーにも採用されている。



※V-CAT及びロゴは豊通商株式会社登録商標です。
※パッケージオプションでご選択いただけます。



「フレキシチーク」は木目の風合いが醸し出す高級感と、豊富なカラーラインナップを誇るデザイン性の高さと、世界中のボートオーナーから支持を集めている。また、耐久性も高いため、プレジャーボートに施工した際もメンテナンスは非常にスムーズで、夏場には優れた放熱性も発揮して

くれる。特に、二世世代目となる現行品は見た目と質感にも拘っており、合成チーク材特有のゴムっぽさがなく、程よい毛羽立ちがまるで無垢チークのような質感を実現している。無垢材は貼りたての時は非常に綺麗で素晴らしいが、メンテナンスを怠れば日光や風雨により色あせてきて朽ち

ていく可能性がある。しかし、「フレキシチーク」であれば木材を使用していないため、オイルを塗るといったメンテナンスも不要だ。Z Gradeには国内初カラーとなる「Fade」をベースに「Carbon」をアクセントカラーに採用。エクステリアデザインとの一体感を演出している。



FENDERTEX®
LE FABRICANT DU PARE-BATTAGE TEXTILE



Z Gradeの空間デザインや装備の充実にあわせ、エアフェンダーにも特別な装備が用意されている。優れたデザイン性と高い機能性を持ち合わせたFENDERTEX社



製の「テキスタイルフェンダー」は従来のボートフェンダーの概念を変えた画期的なフェンダーで、軽量かつ折りたたみも可能となっている。本体は特殊ポリエステル素材で構成され、内側のポリウレタンチューブとの2重構造となっている。軽量でありながら、非常に頑丈な耐久性を持ち合わせており、使用しない際は収納もで

きる。素材のポリエステル染糸は紫外線の影響を受けにくく、色落ちしない性質を持っており、ハルを傷つけることなくしっかりとガードしてくれる。高い技術を持つ職人が1点ずつハンドメイドで生産しており、今回はトヨタマリンオリジナルデザインを採用するなど、見た目にも拘って生産されている。

FLEXITEEK

船舶用チーク調床材

「これ、ほんとうに木じゃないの!?!」
まさに天然木の風合い ...

PONAM

[トヨタ ポーナム] 施工実施モデルの一例を見る



PONAM 28G II



PONAM 28V

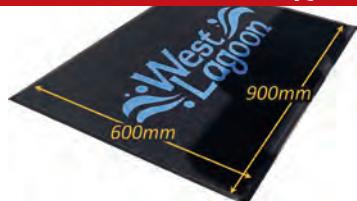


PONAM 31

施工事例を動画でご紹介



ポーナムオーナー様へプレゼント企画



2023年6月30日(金)までにお見積りのお客様に、ご希望のロゴ・カラーで制作したオリジナルフロアマットをプレゼント。

※デザイン・カラーには制限があります。
※お見積り有効期限 3ヶ月。

お問
合せ

日本総輸入販売元 RESUCO (レスコ)

☎ 0564-56-0001 (10:00~17:30/土日定休)

✉ resuco@jsp21.co.jp

お問合せの際は「OceanStyleを見た」とお伝え下さい。

FLEXITEEK

フレキシチーク

www.flexiteek.jp



》 本社開発試作部 モビリティ先行技術室にインタビュー

PONAM-31 Z Grade専用のAR確認ツールを開発

実艇が無い場合でもスムーズな製品理解が可能に

トヨタマリンでは昨年11月にZ Grade専用のAR確認ツールを導入し、全国のトヨタマリン販売店向けにリリース。これにより、実艇がその場に無い場合でも専用装備の確認はもちろん、選択したオプションを装着した状態での外形・内装イメージを正確に把握することが可能となった。今回はシステムを開発した本社開発試作部モビリティ先行技術室の皆さんにインタビューし、完成までの道のり、今後の展望についてお話を伺った。



オプション装備なし



オプション装備あり

AR確認ツールで表示されたPONAM-31 Z Grade。スタイリングやハルカラーはもちろん、フレキシチークやアフタデッキラウンジクッションといったオプションの装着イメージも確認できる。



オプション装備なし



オプション装備あり

ARで船内を表示しているため、実際のサイズ感や船内の雰囲気を感じながら、オプション有無の比較を行うことも可能だ。(写真右)オプション装備・・・収納昇降式43インチ4K液晶テレビとアフタデッキのラウンジクッション、フレキシチーク、タープなど。



—はじめに、開発試作部ならびにモビリティ先行技術室(xR戦略G)の業務について、ご紹介下さい。

星さん「開発試作部では主にクルマの試作車や部品単品を生産しています。モビリティ先行技術室では完成度を高めた上でモノづくりができるよう、モノを作る前にデジタル技術で事前検討などを行っています。」

田中さん「具体的にはデザイン部、開発部、製造部など社内の様々な部署から依頼を受け、ARやVRを使ったデジタルコンテンツの製作やデジタル化の支援を行っています。」

—Z Gradeの確認ツールとして、AR技術を採用することになったきっかけを教えてください。

星さん「トヨタマリンから、昨年のポートショー向けに、フルCG動画の製作依頼を頂いたことがきっかけになりました。動画

今回撮影にご協力いただいた(左から)、田中 誠大さん、川瀬 想平さん、星 克也さん。モビリティ先行技術室では日々最先端の技術や技法を取り入れ、ARやVRを使ったデジタルコンテンツの製作や生産現場のデジタル化支援などを行なっている。



が好評だったこともあり、次のステップとして、AR技術を使った確認ツールの製作依頼をいただきました。」

—ボートの確認ツールとしてAR技術を活用することで、どのようなメリットがありますか？

田中さん「ARやVRでは実物がその場に無くとも、確認ツールとして活用することができます。販売店様に実艇が無い場合はカタログでご確認いただくことしかできませんが、AR技術を使うことで「現物が無いものに対し、表示させる」ということが可能になり、実際の高さや広さだけでなく、オプション装備の有り無しの状態までご確認いただけます。」

—トヨタ自動車内ではAR技術はどのようなシーンで活用されているのでしょうか？

田中さん「企画や車両評価、工場作業など多くのシーンで活用されています。例えば車両評価のシーンでは車両データを数パターン作り、事前に安全性を確認しています。工場だと人の作業をロボットに置き換える際に工場内にARでロボットを映し、配置場所や可動域を検討しています。」

—AR確認ツールについて、開発～完成までの工程を教えてください。

星さん「船の3Dモデルデータを収集し、

今後もワンオフ製品の試作～量産化や、AR、VRを使ったデジタルコンテンツの開発を通じて、私たちの技術が活かせる場面があるのではないかと思います。

モビリティ先行技術室(撮影当時) 星 克也さん



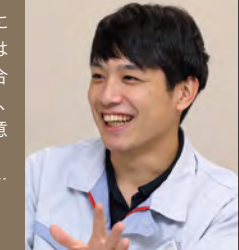
実艇がその場に無い場合でもAR技術を使うことで、「現物が無いものに対し、表示させる」ということが可能になります。

デジタル開発推進室(撮影当時) 田中 誠大さん



より多くの方にスムーズに使ってもらうため、操作性はもちろん、ボタン配置、色合い、フォントなども作り込み、ユーザーインターフェースを意識して製作しました。

車両試作課 川瀬 想平さん



オプションパーツのカラー、サイズ感の確認ツールなどを通じて、私たちの技術が活かせる場面がきっとあるのではないかと感じました。」

—AR以外に、デジタルを活用した新しいツールを開発・使用された事例はありますか？

田中さん「例えば、シミュレーターと組み合わせ、色々なシーンを部屋に居ながら運転できるようにしました。また、今回の船にもあるような職人さんが手作りした部品は3Dスキャンを行い、貴重な技術が失われないよう保存にも努めています。」

—今後、ARやデジタル技術を使って積極的にチャレンジしていきたいことはありますか？

星さん「現在は自動運転といった先進安全システムの検討をバーチャル上で行っています。実車だと危険な評価でさえも、デジタル上であれば無数のパターンで行うこともできます。こうしたデジタル技術を活用し、より安全なクルマ作りにチャレンジしていきたいと思っています。また、自動車業界は100年に一度の大変革期と言われており、トヨタ自動車はモビリティカンパニーへの変革を掲げています。こうしたなかで、メタバースなど、絶えず新しい技術・手法を追求し、未来の社会をリードできるモビリティやサービスを生み出していきたいと考えています。」

》元町工場 車体部 カーボン課にインタビュー

PONAM-31 Z Grade専用のカーボンパーツを開発・生産 クルマづくりで培った技術をボートにも発揮

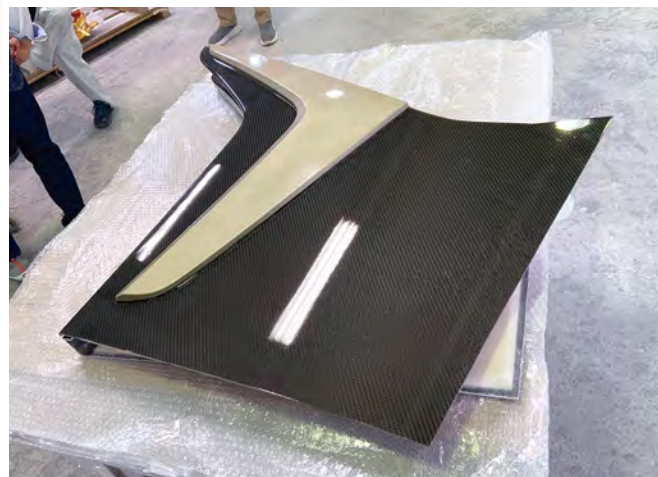
PONAM-31 Z Gradeには、シルキーゴールドがアクセントのリアガーニッシュをはじめ、フライブリッジのコンソールパネルや風防の化粧板に元町工場カーボン課で生産されたカーボンパーツや開発した技術を採用している。コラボレーションすることで、これまでクルマづくりで培ってきた様々な技術をボートづくりにも活かすことができ、これまで以上に高品質なボートを実現している。今回はカーボン課を訪れ、カーボンパーツを生産することになった経緯や、部署の垣根を超えたモノづくりを経験して分かったこと、今後の展望についてインタビューした。



開発技術が採用されたPONAM-31 Z Gradeのリアガーニッシュ。リアルカーボンの質感と織目の美しさが際立つ。



フライブリッジのコンソールパネルもリアルカーボンを採用。



パーツメーカーで完成したばかりのリアガーニッシュ。透明のゲルコートを使用することで、美しいカーボン繊維の織目が可視化されている。



新しい部署の方々と新しいモノづくりに挑戦させていただいたことで、今までクルマでは常識だったプロセスも、改善していくことができそうです。

モノづくり開発統括部 主査 長瀬 雅人さん

元町工場で生産されたLEXUS LFA1号車の前で、今回Z Gradeに採用されるカーボンパーツを手にする。

トヨタのクルマづくりで培ってきた良質な技術をボートに活かすことで、トヨタらしい高品質のボートが提供できると思います。

マリン事業室 企画・開発グループ長 高井 智祐

―はじめに、トヨタ自動車社内でPONAM-31 Z Gradeに使用するカーボンパーツを開発することになったきっかけを教えてください。

長瀬さん「自動車業界は100年に一度の大変革期と言われ、トヨタ自動車はモビリティカンパニーへのシフトを掲げています。そのなかで、クルマづくりで培ってきた技術をマリン製品はもちろん、e-Paletteをはじめとするあらゆるモビリティに活かせないか日々検討してきました。その中でも、マリン業界で広く採用されているガラスFRPと非常によく似た作り方で製品を生産しているカーボンFRPをマリン製品に適用できないかと考えておりました。」

高井「マリン事業室としては、お客様からクルマとの親和性や共通項をお尋ねいただくこともあり、よりよい商品にしたいため、社内の技術開発にはアンテナを張っております。今回のZ Grade開発においては、デザインスタディの段階からツー

トーンのカラーリングだけでなく、コンセプトに呼応する“リアルで上質な質感”に拘りたいという想いがあり、このプロジェクトへの参加を長瀬さんを通じて依頼させていただきました。」

―ボートに採用するカーボンパーツの開発依頼があった時、カーボン課としてはどのように思いましたか？

小山さん「私たちは主に車両向け部品の生産を行ってきましたが、モビリティカンパニーの一員として、これまで経験のない領域にもチャレンジできることにまずは感謝しました。その上で、LEXUS LFAから築いてきた高い品質を高級プレジャーボートPONAMの部品にも採用いただける様、ぜひ取り組みたいと思いました。」

小早川さん「普段私たちが作っているクルマの規格でボートに合うものができるのか不安はありましたが、これまで接する機会がなかったお客様にもカーボン課で生産した製品に触れていただけると

思うと、そんな未来にワクワクしました。」

―カーボン課ではこれまでにどのようなパーツを開発されてきたのでしょうか？

小山さん「LEXUS LFAの車両骨格から内外板まで生産したのを始め、直近ではプリウスPHEVのバックドアインナ、GRやリスのルーフ、LEXUS RC F、LCのフード、ルーフ、ラゲージ、ドアインナ、スポイラーなどを量産しています。」

―クルマ以外にもカーボンパーツの生産を行なっているのでしょうか？

小早川さん「量産部品はクルマ中心となりますが、開発品や試作品として、パラリンピック選手のチェアスキー器具やエアレース向けのカーボンパーツも生産してきました。また、社内イベント向けのトロフィーやオーナメント製作も行っています。」

―今回カーボン課でご協力されたパーツはPONAM-31 Z Gradeのどの部分に採用されていますか？

小山さん「リアガーニッシュをはじめ、フライブリッジにある操舵エリアのコンソールパネルや風防の化粧板に使用されています。」

長瀬さん「今回は新しい取り組みとして、リアガーニッシュについてはカーボン課のメンバーがパーツメーカー様を訪れ、技術支援や作り方のレシピ提供をし、生産していただいております。」



エアレースで活躍する室屋義秀選手の機体（エンジンカウル部分）にもトヨタ製のカーボンパーツが採用されている。



パラリンピンスキーの村岡桃佳選手が使用するチェアスキーの部品製作も行なっている。



昨年発表されたクラウンのラインオフ式にはカーボン課が作ったカーボン製の王冠が使用された。



今回撮影にご協力いただいた元町工場カーボン課の皆さん。後ろに見えているのはLEXUS LFAのカーボンFRP製メインボディ。

—今回開発されたカーボンパーツの完成までの製造工程を教えてください。

小早川さん「材料入荷→規定形状にカットマシンで切断→金型に積層→オートクレープで熱と圧力をかけて板を成形→5軸加工機で切り出し→塗装前処理→クリア塗装→検査→梱包という流れで製造しています。」

—開発にあたり、最も拘ったポイントは何でしょうか？ また、苦労したポイントもあればお聞かせ下さい。

小早川さん「一般的にボート向け部品で使用されている色付きゲルコートをFRPに吹き付けると中身が見えませんが、今回は白ではなく透明のゲルコートを使用することで、カーボンの織目まで可

視化された工法としました。これは造船業界ではあまり類をみない工法だと思います。苦労した点は海ならではの塩害と紫外線を避けるためのコーティングや塗装でした。」

—トヨタマリンとのコラボレーションを通じて、新しい発見はありましたか？

小山さん「今回は少数精鋭のチームで個々が広い責任範囲を担当することで、PDCAサイクルを素早く回すことができたため、想像以上のスピード感で開発を進められました。また、昨今はデジタルツールの普及やDXにより様々な部署が連携してモノづくりをすることが以前よりスムーズにできるようになったと感じました。」

長瀬さん「クルマの製造工程では様々な部署との連携が必要で、新しいことを始める時にどうしても時間が掛かってしまいますが、少数精鋭のマリン事業室の開発に対するスピード感は私たちの想像以上でした。より速く、よりいいものを提供するためのプロセスや工夫をこのプロ

ジェクトを通じて経験することができました。また、新しい部署の方々と新しいモノづくりにチャレンジさせていただくことで、今までクルマでは常識だったプロセスさえも、改善していくことができると改めて気付かされました。」

—カーボンパーツ生産にあたり、TPSなどの生産方式は採用しているのでしょうか？

小早川さん「一回の成形で大きなパネルを作ることで、一つのパネルからより多くのパーツを作っています。徹底したムダ排除による原価低減を基本に、作業要領や仕事の教え方をしくみ化することで、生産性を向上できるよう取組んでいます。」

—プロジェクト開始から実際に最初のカーボンパーツが完成するまで、期間はどのくらいでしたか？

長瀬さん「コンソールなどのパーツは成形用の型新作が不要だったこともあり、約5日で初号艇向けの初品ができました。リアガーニッシュについては、既存成

形型の活用、新たに開発した工法へのチャレンジ、品質造り込みなどもあり、約2ヶ月半で造りこみました。」

—ボートに採用するカーボンパーツを生産することで、今後どんなことが期待されていますか？また、周囲の反応はいかがでしょう？

小山さん「今後はPONAM-31以外のボート・船舶への展開や、化粧板だけでなく構造部品も検討していきたいです。モビリティカンパニーへの積極的なチャレンジの一環として、あらゆるモビリティに対するカーボンパーツの適用を目指し、技術開発や部品開発を継続したいと考えています。」

長瀬さん「今回新しいモノづくりにチャレンジできたことで得られた経験はきっと今後のクルマづくりにも活かせると思います。また、社内の多くの部署にも、私たちがボートづくりに携わるプロジェクトにチャレンジしていることを知っていただき、それが大きなモチベーションにもなっています。」

小早川さん「ボートオーナー様は本物の価値を知っていらっしゃるため、品質に対しては非常にシビアだと思いますが、本当に良いものはしっかりとその価値を評価していただけていると思います。だからこそ、私たちはボートオーナー様にも認めていただけるような、高品質のカーボンパーツを作っていきたいと思っています。」

—今後もクルマのパーツ以外の方野にも積極的にトライしていくのでしょうか？

小山さん「車両以外ではバインダー、本のしおり、ネームプレートなど、実用向けの新しい製品についても販売に向けて検討しています。」



モビリティカンパニーを目指すなかで、あらゆるモビリティに対するカーボンパーツの適用を目指し、技術開発や部品開発を継続していきたいと思います。
カーボン課 チーフエキスパート
小山 友紀さん



今回は透明のゲルコートを使用することで、カーボン繊維の織目まで可視化されたカーボンパーツの技術開発に挑戦しました。これは造船業界ではあまり類をみない工法だと思います。
カーボン課 チームリーダー
小早川 真貴さん

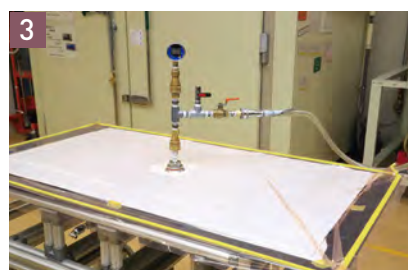
生産までの流れ



1 カarbon材をカットマシンで規定形状に切断する。



2 同じサイズに切断されたカーボン材を何層も重ねていく。



3 金型に積層したカーボン材をパッキングし、真空状態にする。



6 5軸加工機の操作モニターにより、切り出す形状を再確認。



7 5軸加工機で事前に設定された形状にカーボンを切り出す。



8 繊細な技術で細かな部分まで高品質に仕上げる。



4 金型とカーボン材をオートクレープに投入した状態。



5 オートクレープ内で熱と圧力をかけて成形されたパネルを取り出す様子。



9 専用の機械を使用し、形状や強度を徹底的にチェックする。



10 最終製品をライトの反射を利用してきめ細かく検査。この後、梱包の工程へ。

海女文化の残る美しい海で

「御食国」鳥羽が誇る四季の恵みに触れる

鳥羽は年間を通して温暖な気候をもたらす暖流黒潮と、独特形状が特徴的なリアス式海岸により、様々な海の幸に恵まれた土地だ。かつては御食国のひとつとして朝廷に食糧を献上していた程で、今もなお全域が伊勢志摩国立公園に指定されている。今回は鳥羽エリアにて日本の伝統建築を思わせる由緒ある旅館の絶品ランチ、そして半世紀以上変わらぬ製法のチーズケーキを堪能すべく、PONAM-28V Hybridで出航した。



長さ32m、幅2.7mの海上栈橋は施設を利用すれば停泊可能。利用に際して注意事項(当日の利用申請不可など)がいくつかあるため、必ず事前の申請が必要だ。

トヨタの技術が凝縮された新機軸のポート PONAM-28V Hybridとは

今回のクルージングに使用したPONAM-28V Hybridは、市販モデルの「PONAM-28V」をベースに開発された、国内では初となるパラレル式プラグインハイブリッドシステムを搭載したプレジャーボートだ。モーター、エンジン、またはその両方を用いた3通りの駆動をシームレスに切り替えることが可能で、モーター走行時にはゼロエミッションを実現している。市販艇となるPONAM-28Vのもつ曲線美を損なわずにハイブリッドの機構が組み込まれており、車の分野で培ってきたハイブリッド技術を持つトヨタだからこそ実現できた新機軸のボートだ。現時点では量産化の予定はないものの、プレジャーボートの新しい可能性を感じさせる1艇である。



今回はPONAM-28V Hybridで出航。市販モデルの「PONAM-28V」をベースに国内初のパラレル式プラグインハイブリッドシステムを搭載し、モーター、エンジン、モーター+エンジンを併用した3通りの駆動をシームレスに切り替えることが可能。走行中にバッテリー充電量が低下すると、自動でエンジンを起動し、バッテリーを充電してくれる。

ハイブリッドシステムに最適化されたオール電動1軸TVAS(トヨタバーチャルアンカーシステム)は低回転でも利用可能で、静粛性の高い定点保持を実現している。



清潔感があって広々としたキャビン内には市販モデルのレストルーム部分にベンチソファを設置。より多くの人がキャビン内で寛ぐことができる。



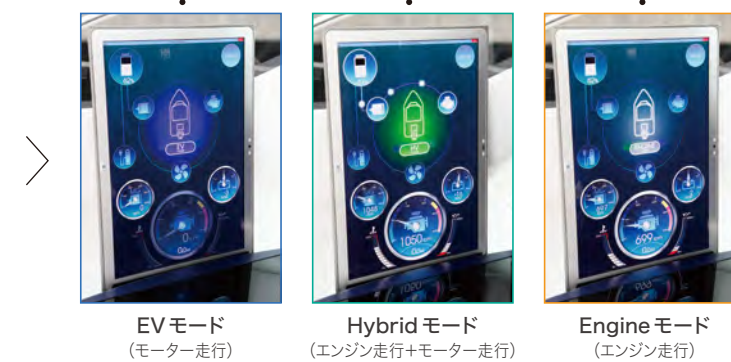
EVモードやHybridモードでは圧倒的な静粛性を実現しており、船内の会話がとてもスムーズ。アイドリングストップも可能で、トヨタのクルマづくりで培った技術が活かされている。



ボタン操作で走行モードを切り替えることも可能。スターターボタンはプリウスと同じものが使用されている。



キャビン内のテーブルにはHV PCモニターが設置されている。走行モードに合わせて表示される情報が切り替わり、現在の走行モードや電池残量などを知らせてくれる。



EVモード
(モーター走行)

Hybridモード
(エンジン走行+モーター走行)

Engineモード
(エンジン走行)

栈橋から旅館「潮路亭」へ 混雑を避け移動から旅情に浸る

日本各地に優れた観光地はあるが、どこも気になるのは交通状況だ。人の心を惹きつける魅力ある場所だからこそ、混雑は避けられない。癒しと休息を求めて旅館へ向かう道中、渋滞に捕まり、到着した時には疲れ果ててしまった経験がある方も多いのではないだろうか。しかし、鳥羽でも指折りの旅館「潮路亭」は海からもアクセスできる。施設の利用者であれば専用の海上栈橋に停泊することができ、停泊料は無料で利用可能だ（要事前申請）。凛とした趣の純和風な旅館ながら、近代的な快適性が見事に融和された旅館「潮路亭」。伊勢神宮を感じられる静謐な空間で、ゆったりと心身を休めることができるこの場所に、家族や仲間、時には一人で喧騒を忘れ海から訪ねれば、移動すらも旅の思い出になるだろう。

真珠の郷のおもてなし

潮路亭

SHIOJITEI



最初に訪れたのは潮路亭。三重の文化を感じさせる純和風な建築と、現代的な快適性が調和した居心地の良い空間を演出している。

潮路亭と栈橋の間には芝生エリアが広がり、潮の香りや潮風を感じながら鳥羽湾を眺めることができる。

取材協力

潮路亭

〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1-23-1
TEL: (代)0599-26-5477

潮路亭のレストラン「鉄板焼 清石」は、料理人の華麗な手捌きによって彩られた焼きたての地元食材を堪能できるお店だ。座席は掘りこたつ式になっており、足元を楽に寛いで食事を楽しめる。

吟味された地元食材を 旬産旬消で心ゆくまで

潮路亭のレストラン「鉄板焼 清石」は、6席のみの完全予約制の鉄板焼きレストランだ。料理人自らが答志島の市場に出向き仕入れた伊勢海老や鮑といった新鮮な食材や、地元のブランド牛を鉄板焼きで味わえる。仕入れた当日に調理されるものも多く、鮮度抜群の食材を鉄板焼きにすることで、素材本来のおいしさを堪能することができる。料理人の手によって目の前で、食欲をかきたてる音と香りと共に、旬の食材が食べごろに彩られていく。その様は鉄板焼きならではの贅沢な満足感を与えてくれる。



旬の海の幸や山の幸をはじめ、年間を通して四季折々の旬食材を堪能できる。席数は6席のみで完全予約制。



1. 美熊野牛のフィレ肉

三重県熊野が誇るブランド牛は油もありながら赤身も美しく、やわらかい。ライム、ワサビ、玉ねぎを使ったソースの3通りの味わいで、飽きずに堪能できる。旬の焼き野菜が彩りを添え、山の幸も楽しませてくれる。

2. 本日のお造り

南伊勢町で養殖された伊勢マグロは脂が乗っており身も柔らかく、タイの刺身とサワラの焼き霜は醤油だけでなく塩でも楽しめる。シンプルだからこそ新鮮さをしっかりと感じられる。厳選した食材に対する自信を感じさせる一品だ。

3. 伊勢海老のグリル

鮮度抜群の伊勢海老を贅沢にグリルした一品。卵黄に伊勢海老の頭からとった出汁、レモン、バターを加えて作られたサバイヨンソースが添えられている。伊勢海老の濃厚な旨味を出汁とバターが更に引き立て、柑橘類のさわやかな風味がその輪郭を引き締めてくれる。残ったソースに焼き目鮮やかなトーストをつけて食べれば、香ばしいトーストにソースがしっかりとマッチし、一皿で二度楽しめる。



潮路亭から鳥羽国際ホテルへは徒歩で移動可能。鳥羽国際ホテルは半世紀以上の歴史があるホテルで、鳥羽湾を望む絶好のロケーションに位置している。



ラウンジからは桟橋も見えるため、鳥羽の海に浮かぶマイボートを眺めつつ、船旅の余韻に浸ることもできる。クルージングで来たからこそ味わえる贅沢だ。

YouTubeで
動画も配信中



YouTube

主水岬に佇み鳥羽湾を間近に望むホテルで 自然と調和し「風」のひと時に身を委ねる

鳥羽湾に突き出た主水岬に位置する鳥羽国際ホテルは、1964年に開業して以来国内外の賓客を幾度となくもてなしてきた歴史あるホテルだ。開業年の干支にちなみ「タツノオトシゴ」をロゴにあしらい、半世紀以上にわたって伝統と品格を保ち続けている。潮路亭同様に今回PONAM-28V Hybridを係留した桟橋を使えば海からのアクセスも可能である。和を基調とした潮路亭に対し、鳥羽国際ホテルはラグジュアリーなリゾートホテルのテイストとなっており、異なったコンセプトから脈々と紡がれた三重の文化を感じさせてくれる。2010年4月には「真珠の海に抱かれるリゾート」をコンセプトにリニューアルが行われており、鳥羽湾の絶景をより楽しめよう計算された、「オーシャンビュー・スイート」の客室を筆頭に鳥羽ならではの様々なおもてなしで日常の喧騒から解き放ってくれる。



テラスにはウッドデッキやソファが配置され、ここからは日の出を拝むこともできる。夜に条件が揃えば、月光が水面に映って川のように見えるムーンリバーも見られる。



取材協力

鳥羽国際ホテル
〒517-0011
三重県鳥羽市鳥羽1-23-1
TEL:0599-26-4121



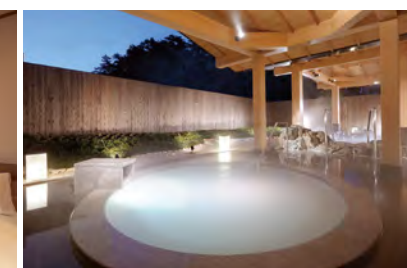
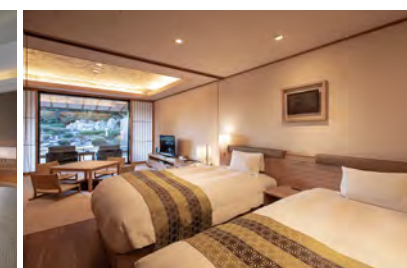
洗練された雰囲気が漂うラウンジからは鳥羽の海を一望できる。香り高いコーヒーをお供にゆったりと寛ぐのも旅の醍醐味だろう。



モンドセレクション5年連続最高金賞を受賞した絶品チーズケーキは、このために遠方から足を運ぶ人もいるほど。

半世紀以上変わらぬ製法を守り続ける 不動の人気を誇る絶品チーズケーキ

鳥羽国際ホテルのカフェラウンジでは半世紀以上変わらぬ製法で作られた名物チーズケーキが食べられる。より抜きの材料で丁寧に作り上げられたチーズケーキは、しっとりとした舌触りに甘蜜のまろやかな風味と、濃厚なチーズの味わいが絶妙な一体感を醸し出す逸品だ。お取り寄せ品としてメディアにも何度も取り上げられており、このために遠方から足を運ぶ人もいる程で、その味は折り紙付き。また、ラウンジからは桟橋が見え、鳥羽の海に浮かぶマイボートを眺めることもできる。上質な空間で香り高いコーヒーと共に、こだわりのチーズケーキに舌鼓を打ちつつ、クルージングの思い出に浸る。遠く見える島々に、次なるクルージングに思いを馳せるのも一興。ボートオーナーだからこそできる、大人の遊び方だ。



鳥羽国際ホテルと潮路亭には様々な宿泊プランが用意されているため、泊まりでのクルージングにも対応してくれる。鳥羽国際ホテルのオーシャンビュー・スイートは海側に設置された大型の窓から鳥羽の海を一目で見渡せる絶景が自慢のお部屋。一方、潮路亭の露天風呂付き客室では日本庭園を望む専用の露天風呂とデッキテラスが配置され、日常の喧騒から離れたプライベートな時間を過ごすことができる。また、潮路亭にある「常若の湯」は同旅館の宿泊者はもちろん、鳥羽国際ホテルの宿泊者も無料で利用可能で、「パールオーロラ風呂」と、「療養泉」の2つの湯を楽しめる。中でも珍しいのがパールオーロラ風呂で、ミキモト コスメティックスとコラボし真珠由来成分が配合された露天風呂で、しっとりとした潤いのある肌へと導いてくれる。

衣装協力

muta JAPAN 株式会社

・ボンディングパーカー(5LINE)[ブラック] MMBC-220215 ¥52,800
・ベロアラインスカート[ブラック] MMMK-445028 ¥26,400
・メリノウール ハイネックニット(WOMAN)[ホワイト] MMBC-220202 ¥26,400



PONAM-31 Z Grade が国内初お披露目 —— 見学した来場者が評価したポイントとは ——



YOKOHAMA BOAT FAIR 2022

横浜ボートフェアが開催された横浜ベイサイドマリーナのビジター桟橋には国内外の人気モデルが多数集結し、桟橋は大きな賑わいをみせた。



国内初お披露目となったPONAM-31 Z Grade。桟橋には乗船待ちの来場者の列ができるなど、大きな注目を集めていた。



1. 船内では各エリアで来場者がスタッフに質問をしていた。2. PONAM-28Vは試乗も受けており、連日多くの来場者が試乗していた。3. サロンソファはデザインや機能性を含め、来場者から非常に評価が高かった。4. アフトデッキのフレキシチークやラウンジシートも好評だった。

10月21日(金)～23日(日)、神奈川県横浜市の横浜ベイサイドマリーナで「横浜ボートフェア2022」が開催された。トヨタマリンでは昨年3月に発表されたPONAM-31の新グレードとなるPONAM-31 Z Gradeを出展。国内初お披露目となった話題の新グレードには船内見学を希望する人が桟橋で列を作るなど、イベント期間中も大きな注目を集めていた。船体はモデリスタとのコラボレーションにより、更なる進化を遂げており、ダークグレーとライトグレーのツートンカラーを基調に、シルキーゴールドで彩られたガーニッシュを配置したスタイルには来場者から称賛の声が寄せられていた。また、サロンに設置されたモデリスタロゴの入ったサロンソファや2wayサロンテーブルも好評で、デザインや機能性を評価する声が続々と聞こえてくるなど、より快適かつラグジュアリーな雰囲気となったサロンは多くの来場者を魅了していた。他にも、Built-in Wi-Fiを搭載しているため、収納昇降式テレビをオンライン会議用のモニターとすることで、ワークスペースとして活用できる機能性にも注目が集まっていた。国内初お披露目となったPONAM-31 Z Gradeはそのデザインと機能性の高さで、多くのマリンファンからも高く評価されていた。



日本ボート・オブ・ザ・イヤー選考委員がZ Gradeに試乗 —— ラグジュアリーかつ機能的に進化したスタイルを評価 ——



当日は日本ボート・オブ・ザ・イヤー実行委員長を務める山崎憲治氏もPONAM-31 Z Gradeに試乗し、乗り味を入念に確認していた。

昨年10月、日本ボート・オブ・ザ・イヤー実行委員会(以下BOTY)による試乗会が開催され、BOTYの選考委員が国内でお披露目されたばかりのPONAM-31 Z Gradeに試乗した。参加した選考委員はモデリスタとのコラボレーションによって、よりスタイリッシュになった外観やサロンの機能性を絶賛しており、モデリスタのデザインフィロソフィーを応用した「Luxury Party Style & Workcation Utility」のデザインコンセプトを高く評価していた。サロンには洗練されたソファ、2wayタイプのテーブル、収納昇降式テレビなどがあり、船内パーティーを楽しめるだけでなく、ワーキングスペースとしても活用可能で、選考委員の多くが船内でのワーケーションの提案に強い興味を示していた。海上で試乗した際にはややラフな水面コンディションのなか、高い凌波性と加速性を発揮したPONAM-31の乗り味を改めて絶賛する審査員も多く見受けられた。また、ジャイロを搭載したことにより、航行時はもちろん停泊中の横揺れも低減されており、試乗していた選考委員からはより進化した快適な乗り味を評価する声も聞こえてきた。他にも、「TDS(トヨタドockingサポート)」をはじめて体験した選考委員は離着岸精度の高さに驚きの声をあげるなど、トヨタマリンの操船支援システムを絶賛していた。PONAM-31 Z Gradeは国内外の様々なニューモデルを日頃からチェックしているBOTYの選考委員からも高い評価を得ていた。



PONAM-31 Z Gradeのデザインコンセプト「Luxury Party Style & Workcation Utility」を選考委員に説明するトヨタマリンスタッフ。Built-in Wi-Fiや収納昇降式テレビなどを用いたワーキングスペースとしての活用方法についても説明が行われていた。



上質なソファや2wayタイプのテーブルが配置されたサロンは選考委員からの評価も非常に高かった。



帰港の際にはTDS(トヨタドockingサポート)の実演デモも行われ、試乗した選考委員に精度の高さをアピールしていた。



LEXUSの世界観を陸だけでなく海でも体感

「LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE 2022」開催

11月19日(土)～20日(日)、東京都品川区のザ・クルーズクラブ東京にて、「LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE 2022」が開催された。LEXUS LY650はラグジュアリーライフスタイルブランドを目指すLEXUSが提案する新しい海のモビリティとして、お客様の想像を超える驚きと感動の提供に挑戦し続けるLEXUSの世界観が随所に表現された1艇となっている。今回は日頃からLEXUSに乗っているオーナーが2日間に分かれて集まり、一般ユーザーとしては初となるLEXUS LY650でのクルー

ジングを楽しんだ。船内を見学したオーナーからは先進的なデザインと上質さを併せ持つサロンやマスターステートルームを絶賛する声も多く聞こえ、試乗時には快適な乗り心地と高い静粛性でLEXUSの目指す「すっきりと奥深い」走行性能を海上でも発揮していた。イベントに参加したオーナーからは「LEXUSを所有して良かった。」という声も聞こえており、改めてこうしたイベントもLEXUSの顧客満足度の向上に繋がっていることを実感できた。



1. 東京都品川区のザ・クルーズクラブ東京で「LEXUS TOKYO PREMIUM CRUISE 2022」が開催された。2. 参加したLEXUSオーナーはLEXUS LY650に乗船し、レインボーブリッジ、お台場、羽田空港などの観光名所を海上から見学した。3. LEXUS LC Convertibleも試乗車としてイベント会場に展示。4. 試乗後にはトヨタマリンスタッフによるトークセッションを実施。5. 参加者は興味深そうな表情でLEXUS LY650の開発ストーリーに聞き入っていた。

LEXUS LY650
の詳細はこちら

お問合せ先

トヨタマリン営業所 (TOYOTA MARINE ラグーナ)

〒443-0014 愛知県蒲郡市海陽町2-1 フリーダイヤル 0120-532-451 営業時間 10:00～17:00 定休日 火・日曜日

※現在、LY650のご注文を停止しております。

兵庫県の齋藤元彦知事とスーパーヨット関係者による対談が実現

兵庫へのスーパーヨット誘致に向けた意見交換会開催

昨年秋に兵庫県西宮市にある新西宮ヨットハーバーにて、スーパーヨット誘致に向けた意見交換会が開催された。当日は兵庫県の齋藤元彦知事、日本マリン事業協会国際ポートショー委員長の竹長 潤氏、SYLジャパンの稲葉 健太代表がビジターバースに係留されたLEXUS LY650の船内にて、スーパーヨットの動向や誘致に向けた取り組みについて意見交換を行った。日本では2025年に「関西・大阪万博」が開催予定となっており、世界中から

多くの観光客が関西や兵庫県を来訪することが見込まれている。こうした流れのなかで、海外に向けて観光資源に恵まれた兵庫県の魅力を発信するとともに、スーパーヨットの寄港地としてマリーナ環境の整備を強化することで、海外からのスーパーヨットが兵庫県に寄港する機会も増えそうだ。また、スーパーヨット誘致の取り組みが、国内にも広がることで、各地のマリーナにスーパーヨットが積極的に寄港する流れが生まれることにも期待したい。



ビジターバースに係留されたLEXUS LY650にて、スーパーヨット誘致に向けた意見交換会が開催され、兵庫県の齋藤元彦知事(写真右)、日本マリン事業協会 国際ポートショー委員長の竹長 潤氏(写真中央)、SYLジャパンの稲葉 健太代表(写真左)が参加した。

サロン内ではスーパーヨットの動向や誘致に向けた取り組みについて、積極的な意見交換が行われた。



1. 新西宮ヨットハーバーを訪れ、関係者と挨拶を交わす齋藤元彦知事。2. トヨタマリンスタッフ案内のもと、LEXUS LY650の船内を視察した。3. 対談場所となったLEXUS LY650。対談当日は関西フローティングポートショー2022が開催されており、来場者から高い注目を集めていた。4. 当日はそれぞれの立場や経験を踏まえ、盛んに意見交換が行われており、非常に有意義な時間となっていた。

蒲郡に多種多様な乗り物・最新技術が集結 パワステがまごおり スカベンジャーラリー開催 2023/1/22 in Gamagori City, Aichi Prefecture

1月22日(日)、愛知県蒲郡市で「パワステがまごおり スカベンジャーラリー」が開催された。このイベントは蒲郡の街を舞台に、ワクワクを共有できるイベントを通して、様々な業種のカテゴリーのヒト・モノ・コトのキズナを深め、未来への「共創の礎」を築くことを目的として開催された。このイベントにはモリゾウ選手こと豊田章男社長も駆けつけ、開会式やラリーカーのデモランにサプライズで登場。土煙を巻き上げながら圧巻の走行パフォーマンスを披露し、会場を大いに沸き立たせた。



当日はモリゾウ選手こと豊田章男社長がサプライズで登場。会場を大いに盛り上げた。



1. 開会式後、大会関係者とともに記念撮影を行うモリゾウ選手。2. 開会式会場となったラグーナテンボスフェスティバルマーケット南特設会場には大勢の来場者が集まっており、会場は大きな賑わいを見せていた。3. モリゾウ選手はイベント内で行われたラリーカーのデモランにも参戦。集まった観客に向けて、圧巻のデモランを披露してくれた。4. スカベンジャーラリー開催前の様子。「目指せ！ニッポンのモンテカルロ」と銘打たれたこのイベントには魅力的なクルマが多数集結した。5. トヨタ自動車の「MIRAI」のカットモデルの展示。「MIRAI」は水素と酸素を化学反応させて生み出した電気で作る燃料電池自動車。会場では展示と共に仕組みや外部給電についての説明も行われ、来場者の注目を集めていた。

トヨタマリンのボートに試乗 子供達の笑顔が輝いたクルージング体験

今回のイベントでは海の楽しさを知ってもらうため、クルージング体験も開催され、トヨタマリンの「PONAM-31 Z Grade」と「PONAM-28V Hybrid」の2艇が登場。また、桟橋にはラグジュアリーライフスタイルブランドを目指すLEXUSの流れを汲む「LEXUS LY650」が船内見学艇

として用意され、当日受付された方々に公開されていた。クルージング体験は2艇のポーナムシリーズに乗って三河湾をクルージングし、海から蒲郡の街並みを眺めるといふもの。出航してしばらくすると、参加者は皆一様に笑顔になり、船内には楽しげな笑い声が響いていた。こうしたイベントが開催されることで、参加した大勢の人達が改めてクルマの魅力を感じられるとともに、ボートやマリンレジャーの魅力にも触れることができたのではないだろうか。



「PONAM-28V Hybrid」も体験クルージングに登場。市販モデルの「PONAM-28V」をベースに国内初のパラレル式プラグインハイブリッドシステムを搭載している。乗船した方々も船内の静かさに驚きつつ、楽しそうにクルージングを楽しんでいた。



デザインをモデリストとコラボした新グレード「PONAM-31 Z Grade」も試乗艇となり、試乗した方々も非日常の素敵な時間を過ごしていた。また、桟橋はしっかりと人数制限を行っており、活気がありつつも安全面の管理も徹底されていた。



「LEXUS LY650」も船内見学が行われ、来場者はLEXUSの世界観が表現された洗練された空間に驚きの表情を浮かべつつ、楽しそうな表情で見学を楽しんでいた。

サービスマンが伝える出航前点検の重要性 ポーナムを長く乗るためのコツとは

トヨタマリンでは日頃から全国の販売店、サービス店とのネットワークを大切にしており、オーナー艇を充実したサポート体制でフォローしている。また、オーナーには日頃からボートの定期点検整備の重要性を伝えることで、大きな故障を未然に防いでいる。長くポーナムに乗り続けるには日頃からどんなことに気をつけて乗るべきなのか、日々ポーナムのサービス業務に携わるサービスマンにお話を伺った。



今回撮影にご協力いただいたアベイズム株式会社の中川 照久さん(右)とトヨタマリン営業所の横地 範樹(左)。

—はじめに、現在の仕事内容について教えて下さい。

横地 「東日本エリアでお客様の船の整備、追加艀装等のご提案、またはマリーナ・販売店様からのサービスに関するお問合せ対応を主にしています。」

中川さん 「私はアベイズムという会社に所属しており、当初はトヨタマリンさんのオーナーズマニュアルやサービスマニュアル制作に携わりました。現在では全国のお客様の船に起きた不具合などを確認し、各現場のサービスマンへの共有や同じ不具合が他で起きる可能性に備えた部品供給の手配などを行なっています。また、故障があった際には現場のサービスマンと相談した上で、サービスの対応方法の検討、調整をしています。」

—サービスマンを目指したきっかけを教えてください。

横地 「子供の頃から車が好きで、自動車整備士として勤めていた経験もありますが、もともと釣りも大好きで、以前船に乗せてもらった際に『こんな楽しい乗り物があるんだ!』と感じたことがきっかけで、船関係の仕事に就きたいと考えるようになりました。」

—仕事をする上で、やりがいを感じるのはどんなときですか？

横地 「お客様から『ありがとう』や『調子が良くなった』といった感謝の言葉をいただいた時です。そういった言葉をいただいた時に、この仕事を選んで良かったなと感じます。」

—仕事をする上で、1番大切にしていることはありますか？

横地 「常に作業内容は分かりやすく伝えるよう心掛けています。どういった理由でそうしたのか、なぜ必要だったのか、きちんと自分自身も理解した上で、お客様にも納得していただける説明ができるよう努めています。」

—サービスマンの魅力とは？

横地 「一番は達成感です。もともと船に乗るのも、いじるのも好きというがあるので、塩害などが原因の分かりづらい症状でも、試行錯誤を重ねるなかでしっかりと直せた時に、面白さと達成感を感じられる仕事だと思います。」



1. 今回のインタビューでは日頃からオーナーができるメンテナンスポイントについて、分かりやすく伝えてくれた。2. エンジン始動前にVベルトのたわみ、摩耗、亀裂などをチェックしておく。3. 冷却水のリザーブタンクも目視で大きく減っていないか確認しておく。4. 油水分離器は水が混入していないか確認しておく。

—ポーナムを長く乗り続けるために、オーナーの方が日頃からできることはありますか？

横地 「まずは定期点検整備をしっかりと受けていただきたいと思います。船にはインペラのようなゴムの部品やオイルなど、乗らなくても劣化していくものがあります。今は大丈夫でもエンジンに負荷が掛かることで、いずれ故障の原因にもなるので注意していただきたいです。もう一つは自分の船のエンジン音や、普段の回転数とスピードの関係性を把握していただくと良いと思います。最後に、小さくても違和感を感じたら、すぐにサービスマンに相談していただきたいです。故障の

度合いによって金額や修理期間もかなり変わってくるので、小さな違和感で済んでいる間に対処することがとても大切です。」

—出航前の点検は主にどんな部分をチェックすればいいですか？

中川さん 「オーナーズマニュアルに記載してある出航前点検をしていただけると良いかと思います。目で見えてわかるものでは、例えば冷却水、ドライブオイル、エンジンオイル、油水分離器、バッテリー液のチェックなどがあります。冷却水が足りなければ、オーバーヒートの原因になりますし、ドライブオイルやエンジンオイルがなければエンジンやドライブが

焼き付いてしまう原因になります。油水分離器がしっかりと機能しているかをチェックすることで、エンジンへ水の流入が無いかを事前にしっかりとチェックできます。バッテリー液がなければエンジンも掛かりません。他にも挙げると、ドライブのプロペラが変形していないか、船の横や底にへこみやひび割れが無いかを、一回りして見てもらうだけでも違うと思います。今具体例として挙げたチェックポイントはオーナー様からしたら、一見些細で当たり前のようなことにも思えますが、こうした事前確認が実は大きなトラブルを未然に防ぐため、ボートに長く乗り続けるためにはとても大切なことだと私は思います。」



乗船前にはプロペラの取り付け具合に歪みや違和感が無いか確認する。



エンジンオイルの量も適量か確認を怠らないことが重要。



帰港後はドライブの水洗をしっかりと行うことで、ドライブ・エンジン内を塩害から防いでくれる。

人と海の結節点
誰もが海の魅力に触れられる場所

三重県津市にあるマリーナ河芸。釣りやクルージングを楽しむ多くのオーナーで年間を通じて賑わいをみせている。釣りのポイントも非常に近く、近隣には鳥羽エリアもあり、釣りやクルージングの拠点として人気を集めている。



1. 開放感抜群のクラブハウスからは海が一望でき、のんびりと寛ぎながら非日常を感じられる。2. マリーナ内にある「CAFÉ & BBQ MERMAID」では気軽に「手ぶら」でBBQが楽しめる。3. BBQは食材にも拘っており、船やヨットでこれを食べに訪れるビジターも多い。4. クラブハウスには国際VHFの海岸局があり、オーナー艇やレンタル艇の「見守り」と緊急時の即時対応に繋がっている。



株式会社マリーナ河芸

〒510-0303 三重県津市河芸町東千里854-3
TEL:059-245-5001 FAX:059-245-5002
https://www.marina-kawage.co.jp

マリーナは自然のビーチと防波堤に囲まれた掘り込み式になっており、強風でも保管艇が揺れない静穏度が魅力。

アメリカ西海岸を連想させる
「三重フォルニア」で海の魅力を発信

マリーナ河芸は1995年に三重県津市にオープンして以降、年齢や性別に関わらず、誰もが気軽に楽しめる海の魅力を様々な形で発信し続けている。充実した設備はもちろん、海遊びのプロフェッショナルが多数在籍するマリーナでは子供達に海の魅力を伝えるプログラムへの参加や障がいの有無に関わらず誰もが海を楽しめるマリニイベントの開催を通じて、これまで大勢の人たちに

様々な艇種に触れてきたスタッフが語る
ポーナムシリーズの魅力とは

今回はマリーナ河芸の阪本純子支配人にポーナムシリーズの魅力について伺いました。まずは走行面に関して伺いますと、「ポーナムは波あたりが非常に柔らかく、アルミハル特有の振動の少なさにはとても驚かされました。波切りも良く、乗っていても体が楽なので、ロングクルージングも楽しめると思います。」と、アルミハルの優れた凌波性を高く評価していた。続いて、居住性能についてお尋ねすると、「船内は洗練された雰囲気、レイアウトも非常に機能的です。お仲間やご家族との利用シーンでも十分にリラックスして寛げるのではないのでしょうか。

海の魅力や遊び方を提案している。マリーナにはヤシの木が立ち並ぶ景観が広がり、「三重フォルニア」の愛称でも親しまれている。今年をはじめには日本を代表する9つのマリーナが提携する「ジャパンマリーナアライアンス」にも加盟しており、加盟マリーナ間のショートクルージング～ロングクルージングまで、様々なクルージングイベントにも力を入れている。また、マリーナ河芸に併設する株式会社ダイイチでは昨年からはポーナムシリーズの取り扱いを開始している。

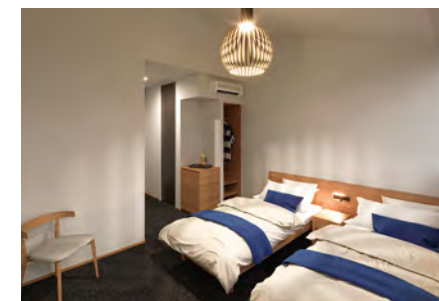
装備も充実しているため、マリーナステイにも最適だと思います。」と居住性能の高さについても賞賛していた。最後にテクノロジー（操船支援システム）について伺いますと、「TDSは精度が素晴らしく、ビギナーの方だと離着岸に不安を感じる方も多いのですが、これなら風に左右されず安心して離着岸できると思いました。TVASに関しても機能が豊富で、使いこなせば使いこなすほど便利になっていく奥深さを感じました。」と操船支援システムに関しても、高評価を頂くことができた。普段から様々なタイプのボートやヨットに触れる機会の多い阪本支配人からも、ポーナムシリーズを高く評価する声を頂くことができた。



海の乗馬倶楽部「エル カバージョ」では体験乗馬やレッスンはじめ、伊勢湾を一望しながら海岸線を歩く海ライドなど様々なスタイルで乗馬を楽しめる。



海遊びや海のお仕事体験など、年間を通して大勢の子供たちに、海の素晴らしさを伝える活動にも力を入れている。



マリーナに隣接する「マリーナ河芸ホテル」は5月にリニューアルオープン予定。



40ft対応の屋内サービス工場を備え、大型艇のサポート体制も万全だ。



大型25t自走式クレーン。大切なボートをスムーズかつ安全に揚降してくれる。

今回撮影にご協力いただいた阪本純子支配人。オーナーのマリンライフを親身になってサポートしてくれるため、マリーナに所属するオーナーからの信頼も厚い。





※写真はZグレードです。



※写真はZグレードです。



※写真はZグレードです。

PONAM-31に新たに追加された「Zグレード」ではコロナ禍で変化する生活様式に対応すべく、「Workcation Utility & Luxury Party Style」を開発コンセプトに、利便性とスタイリッシュさを両立する新装備を数多く採用。デザイン面ではクルマのドレスアップパーツを世に送り出す「MODELLISTA」とボートでは初めてコラボレーションし、先進かつ優雅な佇まいを演出。また、船内にはオプションでWi-Fi設備をビルトインすることが可能で、海を眺めながらの開放的なサードプレイスのワークスタイルを実現。室内空間は誰もが船内で寛げる快適性が追求され、「withコロナ」の時代でも安心して利用できるよう、トヨタ車両にも多く採用される「ナノイーX」をポーナムシリーズとして初搭載（標準装備）している。

PONAM-31は「スピード」「乗り心地」「居住性」の全てにこだわり抜いた、「走りの楽しさ」を体感できるボートである。走行時には抜群のスピードはもちろん、高い安定性も発揮し、スポーティーな走りを存分に楽しめる。サロン入口には3枚扉を採用し、従来よりもワイドな開口部の実現により、サロンとデッキの一体感を感じられる。Xグレードのサロンはネイビーカラーをアクセントにレザー調で統一され、ソファやテーブルの高さを低めに抑えることで、広がりのある室内空間を演出している。他にもオプションで安心かつ正確な離着岸ができるトヨタドockingサポートも搭載可能となり、これまで以上に操船の負担が減りそうだ。まさにスポーツユティリティークルーザーの名に相応しい1艇と言えるだろう。



※写真はXグレードです。

※写真はXグレードです。

※写真はXグレードです。

全長／全幅	10.57m／3.20m
エンジン型式(ディーゼル)	M1KD-VH
排気量	2,982cc × 2基
最高出力	191kW(260PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	620リットル
清水タンク容量	110リットル
定員	12名（フライブリッジ 5名）
航行区域	沿海
本体メーカー希望小売価格(税込)	Xグレード 42,130,000円 Zグレード 45,650,000円



PONAM-35swは外洋での本格的なフィッシングや走る喜びを味わえるクルージングのシーンにおいて、ご家族やご友人、女性にも喜ばれるラグジュアリーな時間を過ごすことができるモデルだ。一步サロンに入ると、洗練された空間が広がっており、居住性の高いサロンで上質なひとときを過ごせそうだ。また、サロン奥に配置されたギャレーはシンク、電子レンジ、調理スペースの他に、大容量冷凍・冷蔵庫が設置されており、ボートステイも存分に楽しめるだろう。他にも、トヨタドライブアシストとトヨタバーチャルアンカーシステムを装備していれば、既存艇にもトヨタドockingサポートを追加装備することが可能だ。走りと居住性を両立したボートに新たな操船支援システムを搭載することで、より快適なマリナライフを楽しむことができそうだ。

全長／全幅	11.95m／3.94m
エンジン型式(ディーゼル)	M1VD-VH
排気量	4,461cc × 2基
最高出力	272kW(370PS) × 2基
使用燃料	軽油
ハル	アルミ合金製
燃料タンク容量	850リットル
清水タンク容量	170リットル
定員	12名（フライブリッジ 5名）
航行区域	沿海
本体メーカー希望小売価格(税込)	76,780,000円



※写真はSグレードです。

※写真はSグレードです。

PONAM-28VはFRP、アルミ材、カーボン繊維の3種類をバランス良く使用したトヨタハイブリッドハルを採用し、従来のアルミハルに比べ、同等以上の剛性感と凌波性を実現するだけでなく、船体重量の軽量化にも成功している。そして、1基掛けエンジンでは世界初となる1軸TVASにおいては新たに作動中の充電機能を追加しており、使用時間が従来の約2倍に延長されたことで、これまで以上に長時間のフィッシングにも対応可能となった。船体のデザインはカーデザインで採用される複雑な3D曲面により、立体的なフォルムと曲線美を追求し、美しいデザインを実現。他にも、キャビン内には自動車で培った技術に応用した業界最高レベルの除湿機能付きマリンエアコンを搭載している。

全長／全幅	9.14m／3.16m
エンジン型式(ディーゼル)	M1KD-VH
排気量	2,982cc × 1基
最高出力	191kW(260PS) × 1基
使用燃料	軽油
ハル	トヨタ ハイブリッド ハル
燃料タンク容量	330リットル
清水タンク容量	56リットル
定員	12名
航行区域	平水、限定沿海、沿岸
本体メーカー希望小売価格(税込)	Sグレード 21,780,000円 Xグレード 28,380,000円



TOYOTA MARINE × muta MARINE



コラボポロシャツプレゼント

アンケートにお答え頂いた方の中から
抽選で3名様に
TOYOTA MARINE × muta MARINE
コラボポロシャツをプレゼントいたします。

応募締切: 2023年5月31日(水)まで

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。

アンケートに
回答する

所要時間: 約4分



※ご回答頂きましたアンケート内容に関しましては、今後の編集・企画立案の際に参考にさせていただきます。また、ご入力頂きました個人情報については読者プレゼント発送のほか、当社が個人の内容特定できないような統計的な資料を作成する際に利用させて頂く場合もございます。個人情報に関しましては当社にて厳重に管理し、この目的以外で許可なく第三者への提供はいたしません。

TOYOTA MARINE Ocean Style

■ 発行人 トヨタ自動車株式会社 ■ 編集長 池淵 弘 (マリン事業室)

■ フォトグラファー 福地 和男 / 石川 三紘 / 石川 雄基 ■ ライター 中田 雅博 / 石川 雄基 / 神谷 仁

■ デザイン・レイアウト 野口 浩司 / 加藤 憲明 ■ 企画・製作 M's PLANNING inc.



Panasonic

ナノイーXをあなたの暮らしへ

ナノイーXは、パナソニックの清潔イオン。

独自のテクノロジーはいま

ご家庭へ、鉄道や自動車へ、

ホテルや商業施設へとひろがりつつけています。



家庭



自動車



商業施設



エレベーターなど



病院・学校



鉄道

くらし 清潔

nanoeX



詳しくはこちらへ

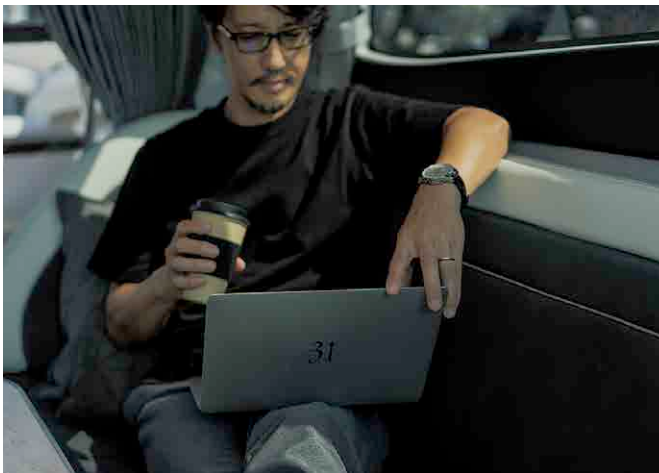


PHOTO: PONAM-31 Z grade ※写真には撮影用小物、オプションパーツ等を含むことがあります。

Sport Utility Cruiser

PONAM-31 *ZGrade* Debut!

Designed by TOYOTA MARINE × MODELLISTA

詳しくは、お近くのトヨタボート販売店、またはフリーダイヤルへお問い合わせください。

トヨタ自動車株式会社 マリン事業室 トヨタマリン営業所 ☎ 0120-532-451 www.toyota.co.jp/marine/



中部エリアで最大級マリーナ

LAGUNA MARINA ラグナマリーナ

新規艇置契約募集中!

関東・関西エリアの大型艇也大歓迎!



Point
1

波穏やかな三河湾に位置する **マリンレジャーの拠点として最高のロケーション**

- 三河湾はヨットレースが数多く開催される、マリンスポーツのメッカ
- 魚影が濃い伊良湖水道や伊勢湾・三河湾など、フィッシングがオールシーズン楽しめます
- 豊富なクルージングスポット。日間賀島、篠島、佐久島の島巡り、伊勢志摩や遠州灘・浜名湖へも気軽に足をのばせます

Waterfall
Marine
activities



Point
2

ラグジュアリー感溢れるマリーナ施設

- ゆとりをもって離着岸ができる海上バース(約280隻)
- 区画されゆったりとした陸上ヤード(約100隻)
- 緑の多いリゾート感漂うクラブハウス



Point
3

マリーナ周辺には 沢山の楽しいスポットが充実



ラグナシアプール



三谷温泉



竹島水族館



Let's enjoy
Outdoor

いつものグレンデを離れ、
新しい感動に触れてみませんか!



www.lagunamarina.co.jp



JAPAN MARINA ALLIANCE

ラグナマリーナ

TEL.0533-58-2950

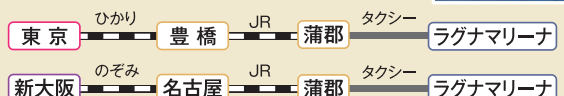
愛知県蒲郡市海陽町2丁目1番地

ビジター大歓迎

ヘリポートも対応可能(要予約)

約130mのビジターバース、寄港地としてお気軽にご利用ください

東京駅/新大阪駅から最短路2時間





海での感動とマリライフを 素敵に広げるNTP2つのマリーナ



ポーナムの事なら販売・保管・メンテナンスまで全てお任せください!!



空から海へアクセスできる、新しいマリライフの提案



『家族と楽しむ海』がコンセプトのアットホームなマリーナ

NTP マリーナりんくう NTP MARINA RINKU

中部圏トップクラスのサービスセンターは、
大型艇の修理、メンテナンスからカスタムまで対応。
お気軽にご相談ください!!

〒479-0882 愛知県常滑市りんくう町3-6-1
TEL.0569-35-7200
www.ntp.co.jp/marina/rinku



70ftクラスを4隻収納可能!



MARINE SERVICE マリンサービス

あなたのニーズをかなえる、テクニカルメニュー



NTPマリンサービスセンターは、様々な艀装対応、船体修理を始め、オリジナルパーツからカスタマイズまで、高い技術力と内製体制でオーナー様のご要望にお応えします。

(NTP MARINE SERVICE CENTER)



PICK UP!
特選商品艇多数あり! 詳細等NTPマリーナホームページからご覧ください!!



NTP マリーナ高浜 NTP MARINA Takahama

名古屋中心部から車で45分。
家族や気の合う仲間たちとのんびり快適なマリーナライフを。
レンタルボートクラブ、ボート免許スクールも実施!!

〒441-1325 愛知県高浜市青木町1-1
TEL.0566-54-5300
www.ntp.co.jp/marina/takahama



新規艇置 契約募集中!

年間保管料の一例	※マリーナりんくうにおきましては現在ご乗上保管中の艇を一時中止させて頂いております。
例 りんくう 45フィートの場合(税込み)	
年間保管料(海上)※特約付	1,776,500 円/年
年間保管料(海上:一般)	2,090,000 円/年
例 たかま 35フィートの場合(税込み)	
年間保管料(海上:B棧橋)	726,000 円/年
年間保管料(陸上)	17フィート 11,000 円/年

※船台料金別途。 ※陸上保管は実測長にて算出。
※上記料金はあくまでも参考です。艀装によって変更あり。
◎上記以外に各入会諸経費が必要となりますので、詳しくはスタッフまでお気軽にお問い合わせ下さい。

NTP マリンクラブ

会員募集中!
オーナー感覚でマリライフを楽しむ! レンタルボートクラブのワンランク上のステータスを追求した会員制クラブ
NTP マリンクラブ事務局
☎ 0569-35-7820 (担当/永田・大竹)

NTP ボート免許教室 抜群の合格率!
受講生募集中!
1級、2級、特殊小型(水上オートバイ専用)の3コースをご用意。
一例(2級) ¥84,000
NTP ボートライセンススクール事務局
☎ 0566-54-5301 (担当/大野・杉浦)

NTP レンタルボートクラブ
会員募集中!
いつでも、乗りたくなったらレンタルボート! ボート免許取得者で18才以上の方ならどなたでも入会可能な会員制クラブ
NTP レンタルボートクラブ事務局
☎ 0566-54-5300 (担当/大野・杉浦)





uno stile senza compromessi
per una vita piu' bella e creativa

Official Store location

【muta ONLINE STORE】www.muta-japan.com 【muta TOKYO JAPAN】03-6721-0348 【muta SALONE】052-265-8852 【muta MARINE TOKYO】03-5770-4498 【muta MARINE GINZA SIX】03-6263-8583
【muta MARINE ZUSHI】0467-39-5589 【muta MARINE RINKU】0569-38-1266 【muta MARINE BIWAKO】0775-36-6445 【muta MARINE KYOTO】075-223-5530 【muta MARINE OSAKA】06-6484-6134
【muta MARINE HIROSHIMA】082-247-6660 【muta MARINE FUKUOKA】092-723-0018 【muta MARINE OKINAWA】098-988-7088 【muta MARINE COLLINA DEL MARE】098-989-8626 【muta MARINE GOLF PALLAZZO】03-5220-4498
【muta MARINE GOLF NIHONBASHI】03-6281-8380 【muta MARINE GOLF SHINJYUKU】03-5990-2888 【muta MARINE GOLF NAGOYA SAKAE】052-264-2798 【muta MARINE GOLF NAGOYA】052-566-3874
【muta MARINE GOLF the MODA】052-777-7373 【muta MARINE GOLF OSAKA】06-6252-5001 【muta MARINE GOLF FUKUOKA】092-713-0018 【muta GLOBALE KANAZAWA】076-264-8881 【muta GLOBALE KOBE】078-232-3988

www.muta-japan.com

muta JAPAN co.,ltd
Copyright© 2015-2023

muta MARINE ALL Rights Reserved.

KOTAP

※着用アイテムは 2023 年夏発売予定となります



MODELLISTA

With TOYOTA / With Your Life

MODELLISTA as customizing brand has achieved the evolvement with Toyota more than 20 years since its establishment in 1997. Achieve the most of car design by performing more individuality is our history of continuous evolution with TOYOTA. At the same time, this is also our continuous evolution history by staying close to the customer's changeable lifestyles during the flow of times. MODELLISTA continues to evolve tirelessly and continues to provide the superior products to exceed the customer's design & quality expectation.

1997年の設立当初より20余年、一貫してトヨタ車のカスタマイズを担当してきたMODELLISTA。クルマのデザインを活かしながら、より個性を演出する、それはトヨタと共に進化を続けた歴史。それは同時に、時代により刻々と変化し続けるお客様のライフスタイルに寄り添いながら進化を続けた歴史でもある。

これからも我々はたゆまぬ進化を続け、デザインで、品質で、お客様の想像を超えた上質なプロダクトを提供し続ける。



◀ モデルスタの詳細はこちらから

<https://www.modellista.co.jp/>





そのクルマは、
クラウンという名前でした。

DISCOVER YOUR CROWN.

新しいクラウン、はじまる。